

第94号【2016/3/1発行】

発行元：昭和大学横浜市北部病院

●巻頭言

『変わりゆく脳神経外科』

- 医師の配属・異動・退職
- 診療統計
- 患者さんからのご意見・ご要望
- 患者さんへのお知らせ
- コメディカルリレー紹介
- TOPICS



院内でも雛祭りを感じていただく工夫をしています！

巻頭言

『変わりゆく脳神経外科』



脳神経外科
谷岡 大輔

当院の脳神経外科は2015年9月に体制が変わり、すべての疾患に対応できるようになりました。私は、大学病院の他、多摩地区や南房総の急性期病院において、脳卒中・脳腫瘍・頭部外傷の手術治療に数多く携わり、これまでに術者・助手として5,540件の手術に関わってきました。ここ10年間は、神経内視鏡手術による新しい手術法を導入して、頭を切らず経鼻的に行う頭蓋底外科手術を確立すべく邁進しております。

さて、皆さんは脳神経外科と言えばどのようなことを思い浮かべるでしょうか。脳卒中や重症頭部外傷の患者さんに対して夜な夜な開頭血腫除去術を行うものの、病棟には寝たきりの患者さんばかりがずらりと並んでしまう。辛い割には負け戦ばかりといったイメージでしょうか。

ここ10-15年間で脳神経外科の手術は大きく変わり、脳血管内治療、神経内視鏡手術、てんかんや顔面けいれん・三叉神経痛などの機能外科、脊髄外科などの新しい分野が発展してきました。これまで、脳血管障害・脳腫瘍の開頭手術件数の割合が全体の約2/3を占めていましたが、現在では約1/3程度に減少しています。

脳梗塞治療に対するt-PA治療は一か八かの博打のようなものでしたが、脳血管内手術の発展によって今では脳の中で詰まっている血栓を直接回収することが可能となり、何の症状もなく社会復帰を果たすことができるようになりました。以前は見放されていた脳梗塞ですが、発症から8時間以内であれば「急性期脳梗塞は治る病気」になったことは非常に画期的なことです。脳血管障害は、血腫除去や破裂脳動脈瘤などの負け戦の手術治療から勝ちに行く治療へと変化しています。動脈瘤に対して破裂する前にクリッピング術を施行したり、脳梗塞になる前に動脈内血栓を取り除いたり、頭皮の血管を頭蓋内へつなぐバイパス術を行ったりと予防的な治療へとシフトしています。

加えて、神経内視鏡の発達により、脳室内病変では3cm程度の皮膚切開と1円玉くらいの穴を開けるだけで簡単に病変に到達できるようになりました。また、頭蓋底病変は開頭することなく鼻孔から内視鏡を挿入して直接鼻腔内から病変の摘出を行います。手術時間も短縮され、術後の回復も早くなりました。頭蓋底腫瘍は術後のリハビリを経て1か月ほどの入院が必要でしたが、現在では7-10日間で退院が可能になっています。

脳外科手術と言えば顕微鏡ですが、それに加えてニューロナビゲーション・脳神経モニタリングといった術中脳波測定などが導入されています。これらを用いることで、触っている脳神経は機能を残しているのか、手足のまひが出現していないかを術中にリアルタイムに把握できるようになりました。また、一切の神経症状の出現が許されなくなり、高い精度を要求されるようになるとともに、術後リハビリ不要の治療を提供できるようになってきています。

このように患者さんにとっても医療スタッフにとっても魅力ある診療科へと変貌を遂げております。北部病院の脳神経外科はまだこれからですが、ここ10年ほどの間に離れていった脳外科患者さんを再び呼び戻せるよう、社会の要請に応え得る科として定着させて参ります。急性期部門の方々には、さらなる多重業務をお願いすることになってしまいますが、引き続き温かい目で見守って頂き、ご理解とご協力をお願いできれば幸いです。

医師の配属・異動・退職

新規配属医師

2016 年 1 月～2016 年 2 月

【新規採用】

- ・阿部 正洋（消化器センター）群馬大学 平成 24 年卒
- ・宇藤 悠（内科）昭和大学 平成 22 年卒

【附属施設より】

- ・中村 俊紀（こどもセンター）昭和大学病院 消化器・一般外科より
- ・井川 三緒（こどもセンター）江東豊洲病院こどもセンターより

【学外研修終了】

- ・山内 章裕（消化器センター）

異動 退職医師

2016 年 1 月～2016 年 2 月

【附属施設へ】

- ・長濱 隆明（こどもセンター⇒昭和大学病院 小児科）

【学外研修】

- ・迫 智也（消化器センター）

【退職】

- ・矢野 雅彦（消化器センター）

診療統計

2015 年 12 月～2016 年 1 月統計データ（）内は 1 日平均

診療実日数 12 月（入院：31 日・外来：26 日）、1 月（入院：31 日・外来：23 日）

	外来患者数	入院患者数	救急搬送数	手術件数
12 月	27,938 人(1,214.7 人)	17,320 人(558.2 人)	400 件(12.9 件)	649 件(34.2 件)
1 月	26,046 人(1,132.4 人)	16,612 人(535.9 人)	414 件(13.4 件)	640 件(33.7 件)

患者さんへのお知らせ

研究成果発表について

当院では職員間の協働・連携をはかり、チーム医療の活性化を目的とした院内学会（第 6 回北部医学会）を開催しております。

患者さんにも日々の研究成果や仕事内容をご理解いただきたく、

下記の日程で院内展示を致しますので、この機会にぜひご覧ください。

日程：平成 28 年 3 月 24 日（木）～28 日（月）

展示場所：中央棟 1 階 ｸﾘｰｽﾞｺｰﾍﾞｰｽ（130 番放射線科（診断）受付横）



コメディカルリレー紹介 vol. 11《医療情報室》

このページでは、病院内の部署・職種を順番に紹介しています。

《北部病院はペーパーレス、フィルムレス》

当院は、日本で初めて電子カルテシステムを用いて完全なペーパーレス（紙のカルテがない）、フィルムレス（放射線検査でフィルムに現像しない）による診療を行う大学附属病院として 2001 年 4 月に開院しました。現在では、多くの基幹病院、大学病院でも電子カルテは導入されておりますが、当時としては画期的なことでした。医療情報室は、IT 化された北部病院の電子カルテシステムの管理を行っています。室長以下 6 名で構成されており、1 年 365 日（今年は 366 日）24 時間、いつでも診療を行うことが出来るように電子カルテシステムの保守管理、改良を行っています。

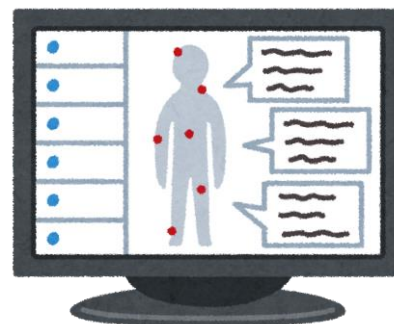


《診療情報の管理、有効活用》

紙のカルテと違い、診療情報を一括管理していますので、診療情報から得られたデータを大量かつ速やかに活用することが可能です。このことにより診療や病院運営が効率良く運用されるばかりでなく、得られた莫大なデータを様々な臨床研究に使用することによって北部病院発の研究成果が数多く発表されています。医療情報室は、電子カルテシステムに蓄積されたデータの管理を厳重に行うだけでなく、様々な要請に対応し、解析のお手伝いをしています。これらのデータ作業を行う場合には、昭和大学の個人情報管理指針、北部病院の個人情報管理規程に則り厳格な手続きにより管理されています。個人情報の機密保持を行うのも医療情報室の重要な役割です。

《今後の展望》

現在の電子カルテシステムは 2 代目で起動してから 9 年目です。安定した運用が出来ていますが、そろそろ老朽化の弊害が出てくる時期です。ここ数年のうちには次期システムへの入れ替えが予想されます。その際には、患者さんの方々にご協力を頂くことがあるかもしれません。その際には、ご迷惑をお掛けすることになると思いますが、ご協力をお願いします。



コメディカルリレー紹介 vol. 12《診療録管理室》

このページでは、病院内の部署・職種を順番に紹介しています。

西棟 2 階医療情報室の中にある診療録管理室では、3 名の**診療情報管理士**が勤務しています。
適切な診療記録の管理を行う部署です。

＊＊業務の一部をご紹介します。

- ・ 診療情報開示業務（カルテ開示）：患者さんや行政からの依頼にも対応しています。
- ・ 量的点検（電子カルテ記載内容の確認）：診療報酬請求の根拠となる記録の確認をしています。
- ・ 全国がん登録（下記参照） など・・・

平成 28 年 1 月より全国がん登録がスタートしました！

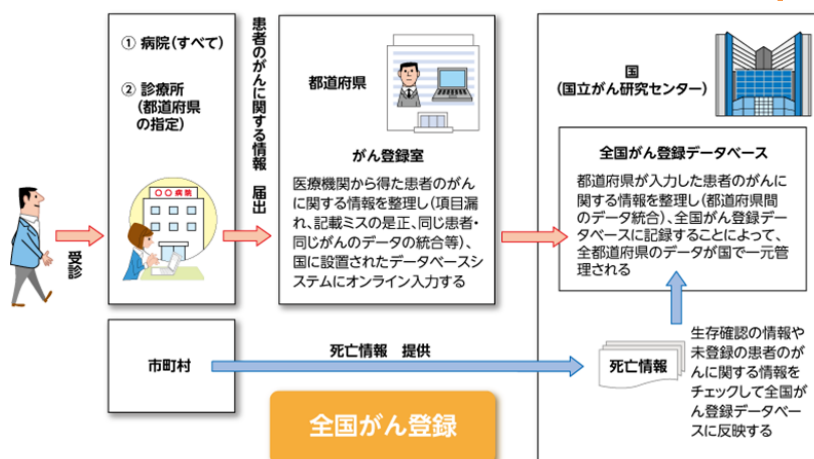
日本でがんと診断されたすべての人のデータを、国で 1 つにまとめて集計・分析・管理する新しい仕組みです。居住地域にかかわらず全国どこの医療機関で診断を受けても、がんと診断された人のデータは都道府県に設置された「がん登録室」を通じて集められ、国のデータベースで一元管理されるようになります

提出する登録項目とは・・・

- (1) がんと診断された人の氏名、性別、生年月日、住所
- (2) がんの診断を行った医療機関名
- (3) がんの診断を受けた日
- (4) がんの種類
- (5) がんの進行度
- (6) がんの発見の経緯
- (7) がんの治療内容
- (8) （死亡した場合は）死亡日
- (9) その他

地域がん登録は、都道府県ごとにデータを収集したため、住んでいる都道府県以外の医療機関で診断・治療を受けた人や、がんにかかってから他県に移動した人などのデータが重複する可能性があります、全国がん登録はすべての医療機関で義務付けられたため、

国は、ほぼすべてのがん患者のデータを収集でき一元管理されます。



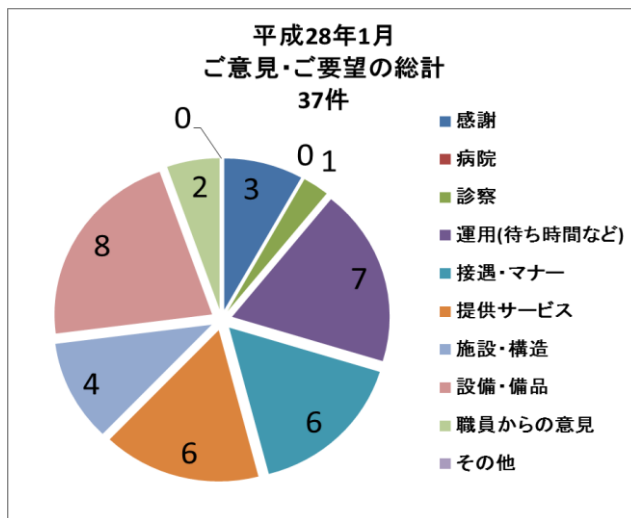
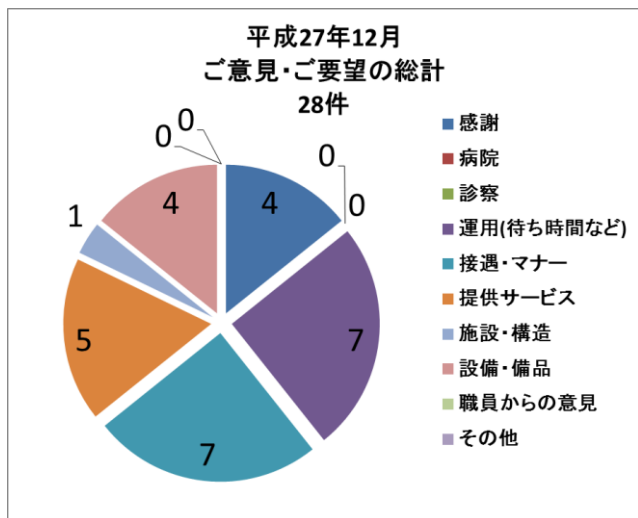
患者さんからのご意見・ご要望

日々患者さんより頂きましたご意見・ご要望に関しましては、関連する部署の責任者に報告し改善に努めております。

今までのご意見の中で多くいただいたものや最近多くいただくご意見・ご要望を中心に改善策を掲載させて頂きました。掲載されていない内容についても対応しておりますのでご了承ください。

今後もお気付きの点やご要望をお聞かせくださいますようお願い申し上げます。

ご意見・ご要望	回答・改善等
会計の待ち時間が長い。 自動精算機が使えないことが多い。	会計の人員については混雑状況を想定して配置を行っておりますが、実際の状況を考慮して対応するように致します。また、会計処理のためにお時間がかかる場合は目安時間や現況を患者さんにお伝えするよう、スタッフに周知いたします。 自動精算機が利用できない患者さんというのは、労災や難病で受診されている方、また当月初めの診療で健康保険証が確認出来ていない方になります。現行システムで自動精算機をご利用いただけない患者さんにつきましては、案内をわかりやすく変更いたします。
午後6時以降の出入口が分かりにくい。	平成28年2月1日より、中央棟1階正面出入口を面会時間に合わせて平日は午後8時まで開放することといたしました。平日午後8時以降と土曜日午後2時以降、日曜日と祝日につきましては中央棟地下1階の時間外出入口（防災センター前）をご利用ください。
外来受付の対応がぶっきらぼうであった。 会計の声が小さく、届いていない。	対応に関してはスタッフ内で以下の点を話し合いました。 ・態度、言葉遣いに十分注意し、丁寧な案内をする。 ・患者さんの立場になって対応し、案内をする。 今後、同様なご意見をいただかないよう、十分注意いたします。 また、会計の声につきましては、実際に自分たちの声がどのくらい届いているのかを待合で聞く調査をいたしました。お呼び出しの際はどの窓口からお呼びしているのかはしっかりと大きな声で対応するよう、スタッフへ周知いたしました。



TOPICS

ロビーコンサートを開催しました。

平成 28 年 1 月 29 日（金）と 2 月 8 日（月）にロビーコンサートを開催しました。1 月は横浜岳風会の方々による詩吟、2 月は演奏グループ「LUNA」の皆さんのピアノ・フルート・歌による合奏をお届けいたしました。

1 月の詩吟では、漢詩だけではなく俳句や和歌なども朗詠され、吟者の音色によって哀愁漂う雰囲気を楽しむことができました。

一方、2 月のプログラムは、バロック時代のクラシックから J-POP、更には童謡にまで及ぶ幅広いもので、短い時間で多様なプログラムをお楽しみいただきました。

《今後の開催予定》

- ・平成 28 年 3 月 24 日（木） ピアノ
- ・平成 28 年 4 月 26 日（火） ピアノ & 歌



荏田南中学校の生徒が職業体験を行いました。

平成 28 年 1 月 21 日（木）と 22 日（金）に横浜市立荏田南中学校 2 年生の 3 名が当院で職業体験を行いました。普段は入ることが出来ない薬局や放射線室、手術室などの院内施設の見学や臨床病理検査室での体験、病棟での看護師業務の実習などを行いました。興味津々な様子で院内施設を見学し、それぞれの部署で意欲的に体験に取り組んでいる姿が印象的でした。少しでも医療の道に興味を持ってもらえれば幸いに思います。

《学生さんの感想》

- ・「チーム医療」という言葉が心に残りました。(A・F)
- ・外科医に興味を持ち、手術される姿を格好いいと感じました。将来は、医学の道も考えています。(H・N)

編集後記



本号が発行される時は、春本番を迎えているでしょうか？春の季節は、スギ花粉やヒノキ花粉による花粉症の季節でもあります。

私中学 2 年生で初めて発症しました。まぶたは腫れて目の前が見えなくなり、鼻は詰まり口呼吸しか出来ない。鼻水とくしゃみは絶えない・・・初めて症状が出た時は原因不明の病気ではないか？とオロオロしたものです。以来、何十年と毎年のように花粉症対策を行っています。

最近では、内服薬・点鼻薬・点眼薬など様々な種類の有効な薬が発売され、これらを組み合わせることで筆者の症状はかなり抑えられるようになったと思います。昨今はスギ花粉症の舌下免疫療法治療薬も保険診療で行われるようになったそうです。

また、筆者はマスクや花粉症用メガネも愛用し、外出後はすぐに入浴するなど薬以外の工夫も行っています。

花粉症の患者さんには不快な季節ですが、一緒に乗り切りましょう。

広報委員会 委員 城井 義隆



北部病院だより 第 94 号

平成 28 年 3 月 1 日発行

発行責任者 世良田 和幸 (昭和大学横浜市北部病院長)

編集責任者 緒方 浩顕 (広報委員会 委員長)

発行 昭和大学横浜市北部病院

〒224-8503 横浜市都筑区茅ヶ崎中央 35-1

電話 045-949-7000(代表)

URL : <http://www.showa-u.ac.jp/SUHY/index.html>

北部病院ホームページにて最新・過去の『病院だより』がご覧いただけます。